

第73回関西蔵前懇話会
2024年6月20日（木）

オスマンのトルコ 世界遺産探訪

大志万 直人
(おおしまん なおと)

(S58応物博)

野外調査の許可証

1982年の調査の際の許可証

最近の調査では、対応機関がかなり権限を持っている機関なので、大使館への許可申請は特段行ないませんが、基本的に、独自調査では、必要です。

今でも、さまざまな古い物品の国外への持ち出しは難しい状況があります。

それは、トルコ国内の文化財(遺跡から出土するもの)の保護を厳重に実施しているためです。

Oshiman ≡ Osman :
ということか、日本人
(Japon)と表示がなかった。

T. C.
İSTANBUL ÜNİVERSİTESİ
YERBİLİMLERİ FAKÜLTESİ
DEKANLIĞI

Sayı : 1515
Konu :

2 Haziran 1982
İSTANBUL.

İLGİLİ MAKAMA

T.C.İmar İskan Bakanlığı, Deprem Araştırma Dairesinin koordinatörlüğünde sürdürülmekte olan, Depremlerin Önceden Belirlenmesi Ulusal Projesi kapsamında, Tokyo Teknik Üniversitesi ile test sahası olan İznik-İzmit-Kastamonu yöresinde, Fakültemiz araştırma gurupları 1982 çalışmalarını, isimleri aşağıda belirtilen Öğretim üye ve yardımcıları ile teknik elemanlarca sürdürecektir.

Gereğini bilgilerinize rica ederim.


Prof. Dr. Osman ÖZTUNALI
Dekan

Doç.Dr.A.Mete Işıkkara
Doç.Dr.Yoshimori Hunkura (Japon)
Doç.Dr.Tokihiko Matsuda (Japon)
Doç.Dr.Naci Orbay
Dr.Demir Kolçak
Uzman Selçuk Sırahioğlu
Uzman Naoto Ōshiman
Asistan Niyazi Baydemir
Teknik Eleman Oğuz Gündoğdu
Teknik Eleman İlyas Çağlar
Teknik Eleman Ali Ardoğan

講演概要

トルコには、2023年時点で21の世界遺産があります。1981年から1990年代中頃までに、その内の10か所の世界遺産を訪れることが出来ました。訪問当時には世界遺産に登録されていなかったものもありますが、そういった遺跡も、その後、世界遺産に登録されています。

トルコの世界遺産の特徴は、国内の様々な地域に分散しているとともに、非常に長い時代の流れにおける、さまざまな民族の興亡の記録の遺産でもあります。

つまり、国内での世界遺産の空間分布は、黒海、エーゲ海、地中海沿岸、アナトリア内陸に分布しており、それぞれの地域での特徴、これは、興亡の歴史の流れ、つまり、先史時代から青銅器時代、ヒッタイト、ギリシャ時代・ペルシア帝国による征服時代、ヘレニズム時代からローマ時代、ビザンチン帝国時代、セルジューク朝時代、オスマン朝時代と、おおよそ一万数千年の流れの記録でもあるのです。

今回は、私が訪れたトルコの世界遺産の内から4箇所を、紹介したいと思います。

トルコ・ツアーの例

天高く伸びる壮麗な
6本のミナレットを従えて建つブルーモスク。
いくつものドームが積み重なって
美しいシルエットをつくり出しています。

広いトルコ内の移動も
国内線でらくらく♪
通常バスで約800km、
約9時間かかるところ…
国内線利用で
約1時間!!
(7日目イズミール→イスタンブール間)

世界遺産 イスタンブール歴史地区
青を基調とした巨大モスク

6 ブルーモスク
(8日目)

4/13出発は9日目
OP ポスボラス海峡クルーズ
スレイマニエモスクを無料

10日間

イスタンブール
ボアズカレ
アンカラ
イズミール
パムッカレ
エフェソス
コンヤ
カッパドキア

トラピックス
(阪急交通社)の朝日新聞広告

トルコ世界遺産一覧表

No.	名称	遺産の種別	認定年	初訪問年	訪問回数
1	チャタルホユックの新石器時代遺跡	文化遺産	2012年		
2	イスタンブール歴史地域	文化遺産	1985年	1981年	20回以上
3	ギョレメ国立公園とカッパドキアの岩窟群	複合遺産	1985年	1982年	2回
4	ディヴリーイの大モスクと病院	文化遺産	1985年		
5	ハットゥシャ：ヒッタイトの首都	文化遺産	1986年	1988年	1回
6	ネムрут・ダー	文化遺産	1987年		
7	クサントス-レトーン	文化遺産	1988年		
8	ヒエラポリス-パムッカレ	複合遺産	1988年	1986年	2回
9	サフランボル市街	文化遺産	1994年		
10	トロイの古代遺跡	文化遺産	1998年	1981年	3回
11	セリミエ・モスクと複合施設群	文化遺産	2011年		
12	ブルサとジュマルクズック：オスマン帝国発祥の地	文化遺産	2014年	1982年	3回
13	ペルガモンとその重層的な文化的景観	文化遺産	2014年	1981年	3回
14	ディヤルバクル城塞とエヴセル庭園の文化的景観	文化遺産	2015年		
15	エフェソス	文化遺産	2015年	1992年	2回
16	アニの古代遺跡	文化遺産	2016年	1990年	1回
17	アフロディシヤス	文化遺産	2017年		
18	ギョベクリ・テペ	文化遺産	2018年		
19	アルスランテペの遺丘	文化遺産	2021年		
20	ゴルディオオン	文化遺産	2023年	1988年	1回
21	中世アナトリアの木造多柱式モスク群	文化遺産	2023年		

阪急交通社HP情報より作成（一部、追記）

<https://www.hankyu-travel.com/heritage/turkey/>

トルコ世界遺産一覧表

No.	名称	遺産の種別	認定年	初訪問年	訪問回数
1	チャタルホユックの新石器時代遺跡	文化遺産	2012年		
2	イスタンブール歴史地域	文化遺産	1985年	1981年	20回以上
3	ギョレメ国立公園とカッパドキアの岩窟群	複合遺産	1985年	1982年	2回
4	ディヴリーイの大モスクと病院	文化遺産	1985年		
5	ハットゥシャ：ヒッタイトの首都	文化遺産	1986年	1988年	1回
6	ネムрут・ダー	文化遺産	1987年		
7	クサントス-レトーン	文化遺産	1988年		
8	ヒエラポリス-パムッカレ	複合遺産	1988年	1986年	2回
9	サフランボル市街	文化遺産	1994年		
10	トロイの古代遺跡	文化遺産	1998年	1981年	3回
11	セリミエ・モスクと複合施設群	文化遺産	2011年		
12	ブルサとジュマルクズック：オスマン帝国発祥の地	文化遺産	2014年	1982年	3回
13	ペルガモンとその重層的な文化的景観	文化遺産	2014年	1981年	3回
14	ディヤルバクル城塞とエヴセル庭園の文化的景観	文化遺産	2015年		
15	エフェesos	文化遺産	2015年	1992年	2回
16	アニの古代遺跡	文化遺産	2016年	1990年	1回
17	アフロディシアス	文化遺産	2017年		
18	ギョベクリ・テペ	文化遺産	2018年		
19	アルスランテペの遺丘	文化遺産	2021年		
20	ゴルディオオン	文化遺産	2023年	1988年	1回
21	中世アナトリアの木造多柱式モスク群	文化遺産	2023年		

阪急交通社HP情報より作成（一部、追記）

<https://www.hankyu-travel.com/heritage/turkey/>

訪れたことのある世界遺産



1. トロイの遺跡

2. ベルガマ遺跡

3. エフェス

4. アニ遺跡

トロイの遺跡



トロイ



23:51 4月24日(水)



Google

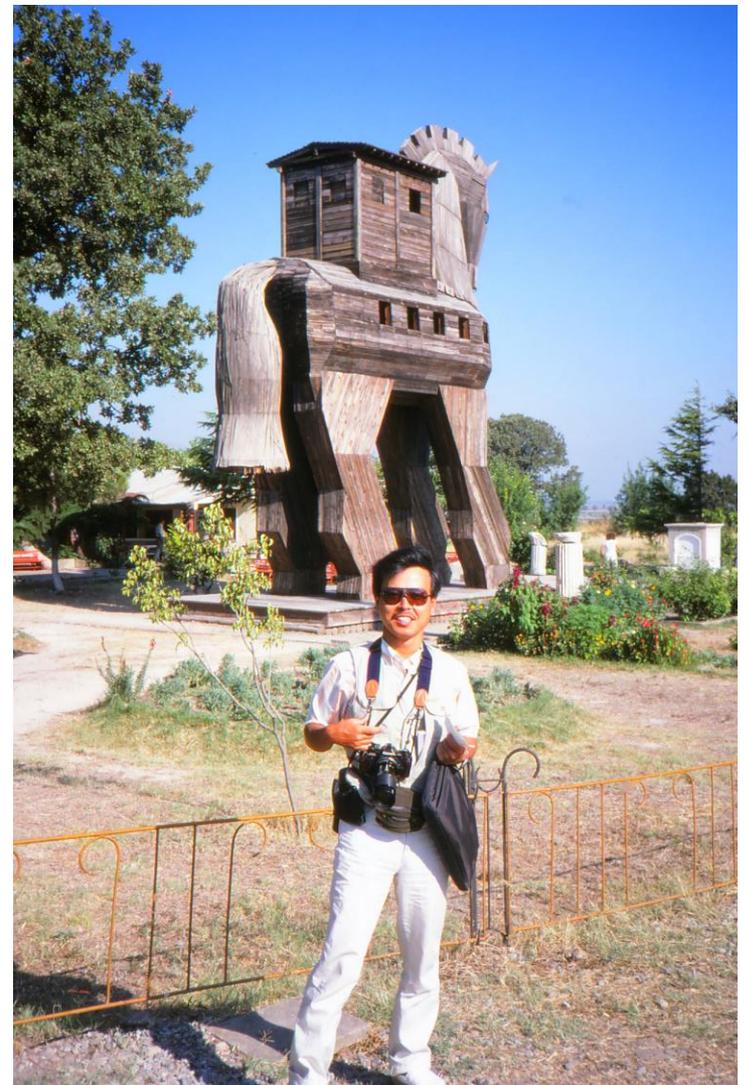
CNES / Airbus, Airbus, Maxar Technologies (39°57'22"N 26°14'34"E) 1 km

トロイ遺跡の概要

シュリーマンが1871～73年の間に初めて発掘したトロイの遺跡は、ヒサルルックテペ（Hisarliktepe）の丘にある。ギリシャ軍との間に起きたトロイ戦争は、紀元前1200年頃にあり、トロイの町は滅亡したが、その後も交易の中心地として復興と滅亡の歴史を繰り返している。

その結果として、トロイの遺跡は、9層にもなる重層的な遺跡となっており、紀元前3200～2600年の第1市（第1層）の期間から、紀元前85年～西暦500年の第9市（第9層）までの期間の遺跡が重なっており、私が最初に訪れた1981年から40年経った、現在でも発掘作業が続いている。

トロイの木馬



1981年7月撮影

1986年8月撮影

1992年8月撮影

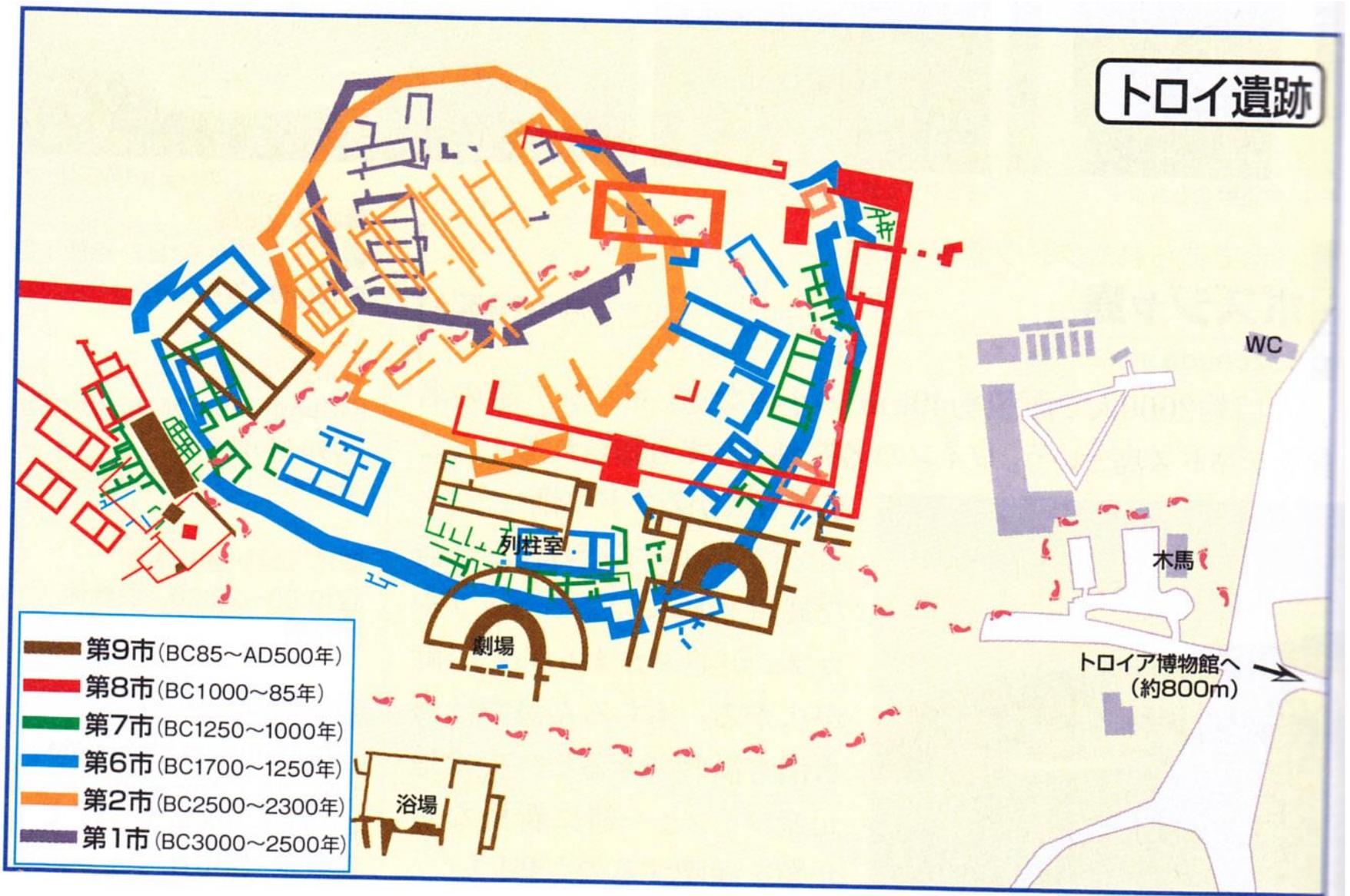


トロイの全9層は、深い方から順に、それぞれ、第1層（第1市）は紀元前3200～2600年の（最も古い）期間、第2層（第2市）は紀元前2600～2300年の期間に、第3層（第3市）は2300～2200年の期間に、第4層（第4市）と第5層（第5市）は紀元前2200～1900年の期間（ミケーネ時代の期間に対応）に、第6層（第6市）は紀元前1900～1300年の期間（この期間は、トロイだけではなく、ヒッタイトやクレタ島と共に黄金期に対応する時期である）に対応する。

第7層（第7市）は紀元前1300～900年の期間でDark Agesと呼ばれているようで、アカイア人（古代ギリシャ人の一族）が黒海沿岸地域からエーゲ海沿岸地域にかけてポリス建設を盛んに行い始めた時期で、トロイとしてはこれに抗った。

その結果、ホメロスが記すことになったトロイ戦争がはじまることとなった。というわけで、第8層（第8市）から第9層（第9市）は紀元前350年～西暦400年までの期間になるが、ヘレニズム時代からローマ時代に対応することになる。

トロイ遺跡の平面図



プリアモスの財宝

シュリーマンは、現在第2市（第2層）と認定されている層をトロイと断定し、そこから「プリアモス（トロイ滅亡のときの王。別名をポダルケス）の財宝」とされる種々の金製品を発掘した。

しかし、現在では、第7市（第7層）がトロイであると断定されている。また、いわゆる「プリアモスの財宝」は、トルコから持ち出されドイツの博物館に保管されていたが、第2次世界大戦でのドイツの敗北と共にその行方が分からなくなってしまっていた。

その後、冷戦終結とともに、ソ連がドイツ占領と共に接收し、レニングラードに保管していることが判明し、現在はサンクトペテルブルグとなった街の博物館に展示されている。

従って、トロイの遺跡訪問した当時は、遺跡の入り口のわきにあった博物館といっても、金とは関わりのない出土品が細々と展示されている印象であった。それでも、陶器製の水道管など興味深いものがたくさんあった。

1981年7月撮影



遺跡の周辺は、ひまわり畑が広がっており、海はかなり離れたところであり、海岸のようなものは確認できなかった。ギリシャ軍の軍船が取り囲んでいる映画の一場面とは、違っており、海退の結果か？



1986年8月撮影



1986年8月撮影



1981年7月撮影

第8層 (第8市)



1986年8月撮影



第9層 (第9市)



第2層 (第2市)





第6層 (第6市)



1986年8月撮影

1. トロイの遺跡

2. ベルガマ遺跡

3. エフェス

4. アニ遺跡

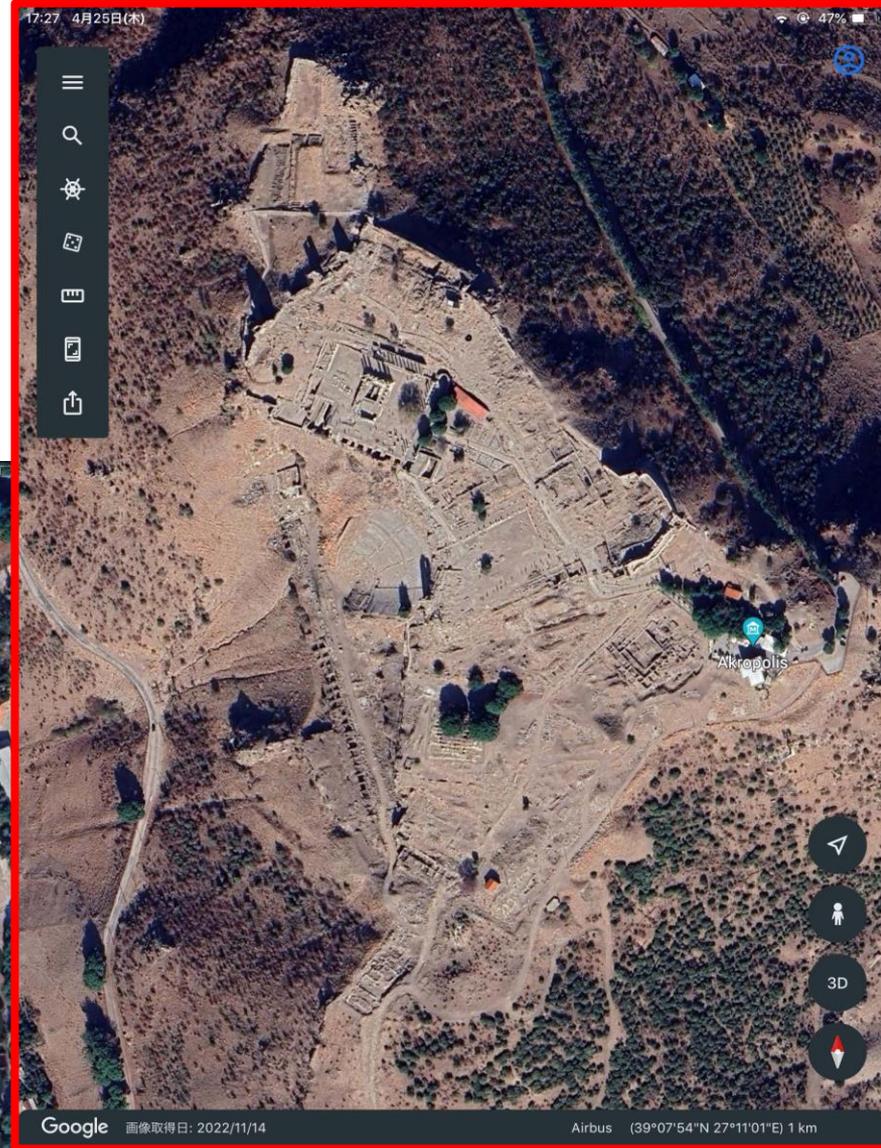


ベルガマ

ベルガマ遺跡

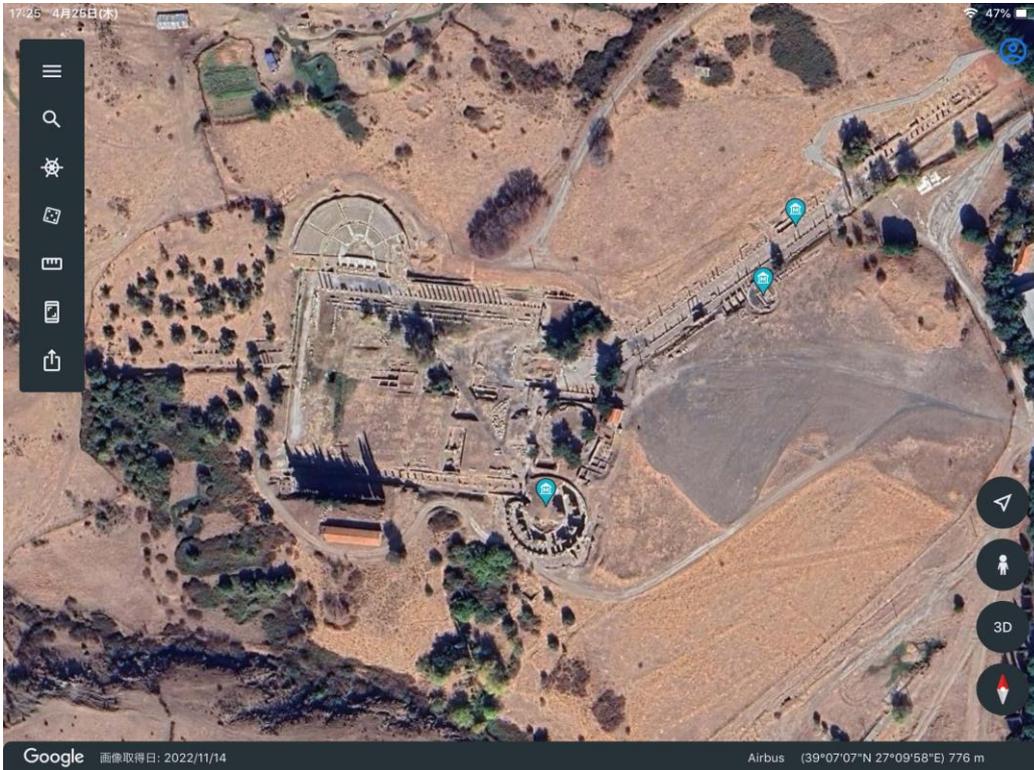
アスクレピオン

アクロポリス



Google 画像取得日: 2022/11/14

Airbus (39°07'54"N 27°11'01"E) 1 km



Google 画像取得日: 2022/11/14

Airbus (39°07'07"N 27°09'58"E) 776 m

ベルガマはトルコ名である。古くはベルガモンと呼ばれた街である。ベルガマを訪れたら、小高い丘の西面に位置するアクロポリスと、その丘を下ったところにあるアスクレピオンの遺跡を訪れるべきである。

ベルガモン王国は、アレクサンダー大王の紀元前323年の死後、その部下たちによる領土と遺産分割闘争の結果として生まれた街である。

大王の死後、武将リシュマコスがこの地に目を付け、臣下のフィレタイロスに財宝の保管を命じた。リシュマコス朝の成立である。ところが、リシュマコスは、紀元前282年にアレクサンダー大王の後継者の一人セレウコスとの戦いで戦死。

フィレタイロスは、残された財宝を基に、アッタロス王朝を築いた。リシュマコス朝は滅びた。

その後、一時シリア・セレウコス朝の支配下にはいるが、エウメネス1世（紀元前263～241年）時に王朝は再興、アッタロス王朝は、紀元前133年まで全5代の繁栄が続く。

1981年7月撮影

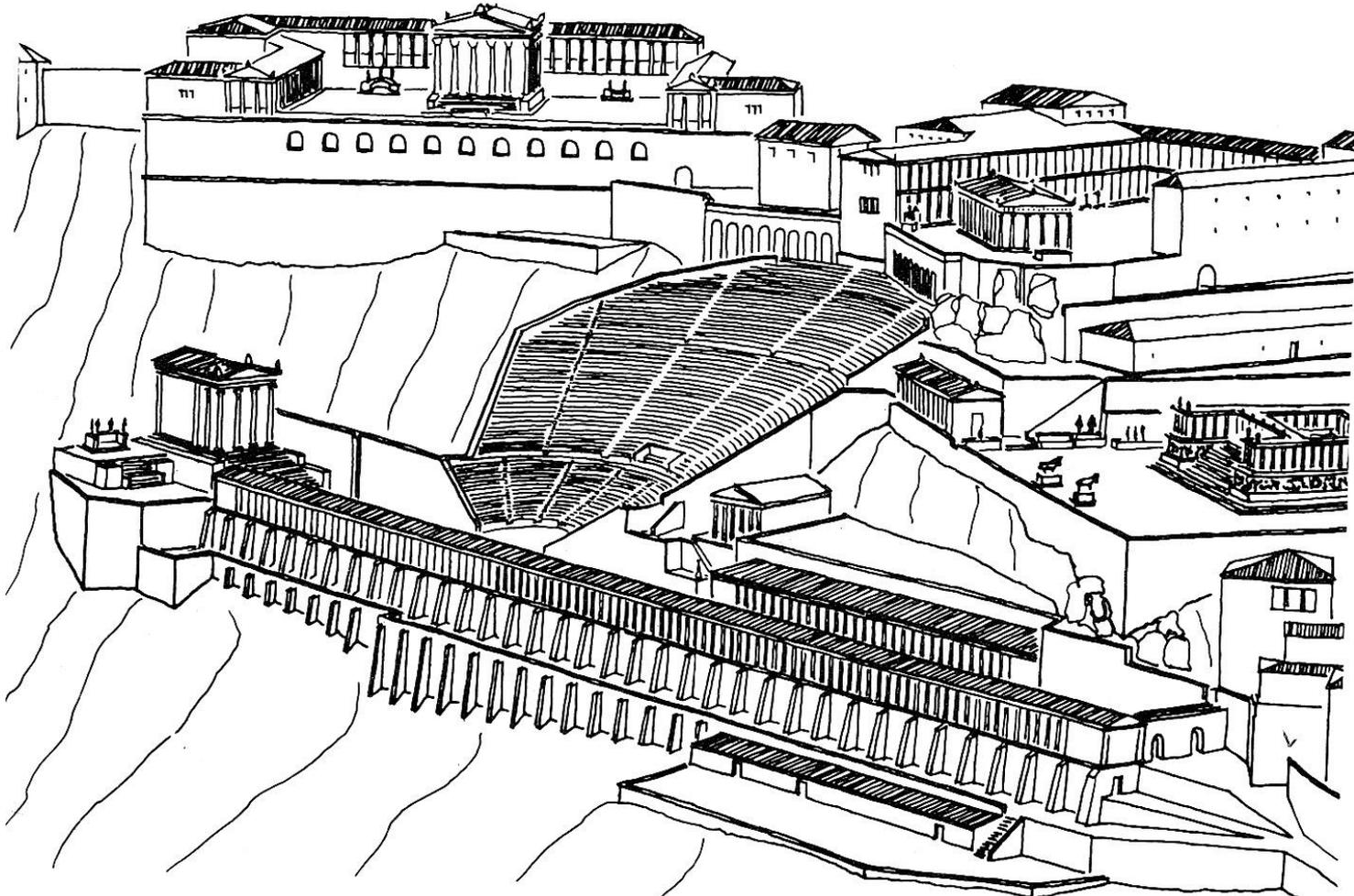
ベルガマ・アクロポリス





1981年7月撮影

ベルガマ・アクロポリスの復元図



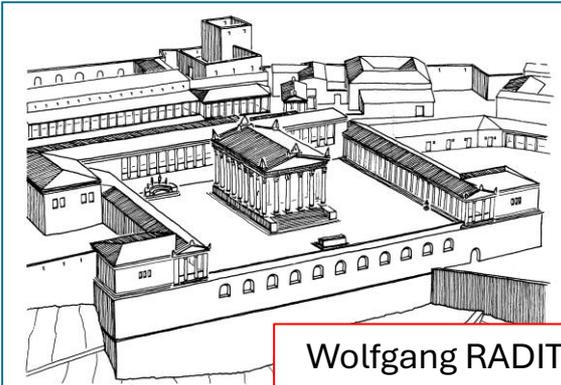
Wolfgang RADIT, Pergamon Archeological Guide, 3rd Edition, Turkiye Turing ve Otomobil Kurumu, Sisli Meydani, 364, Istanbul, pp.75, 1984. より

1981年撮影

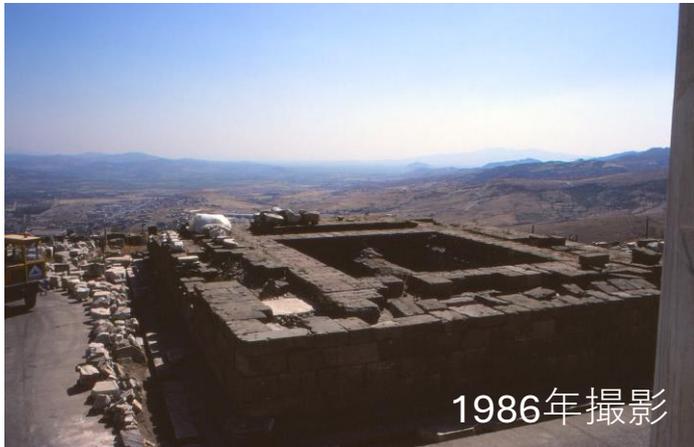


1986年撮影

トラヤノス神殿



Wolfgang RADIT (1984)



1986年撮影



1992年撮影

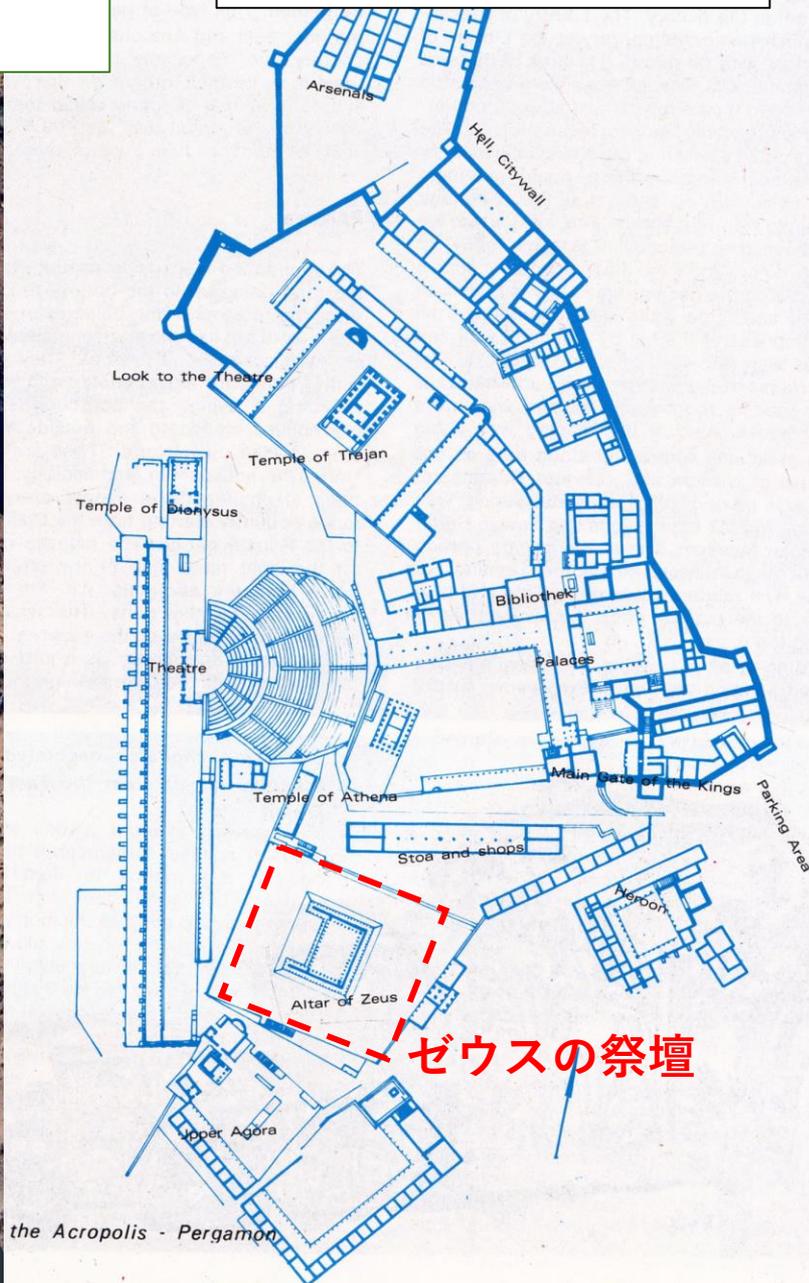
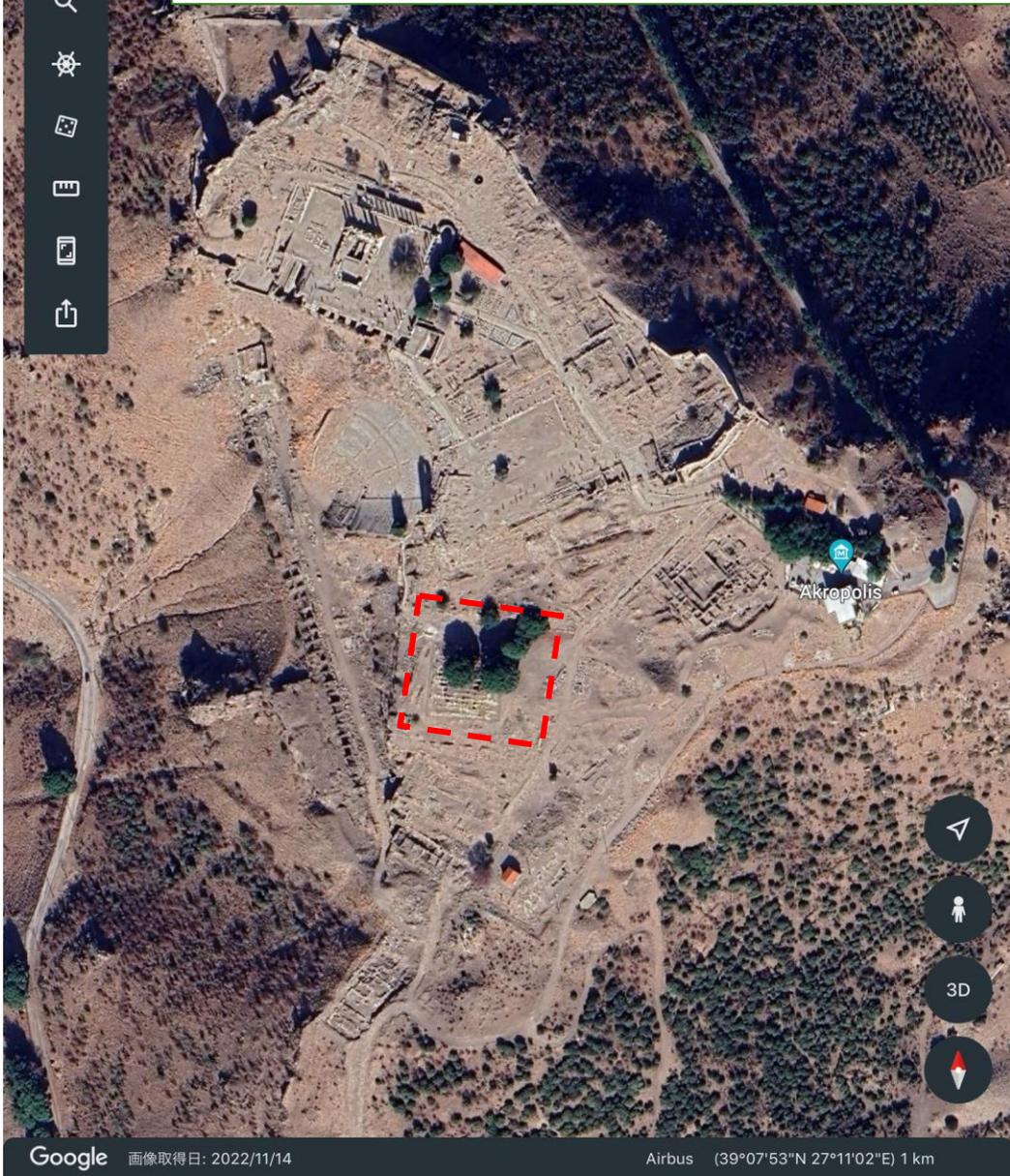


アクロポリスへ
水を供給するための水道橋

ベルガマのアクロポリス ゼウスの祭壇の位置

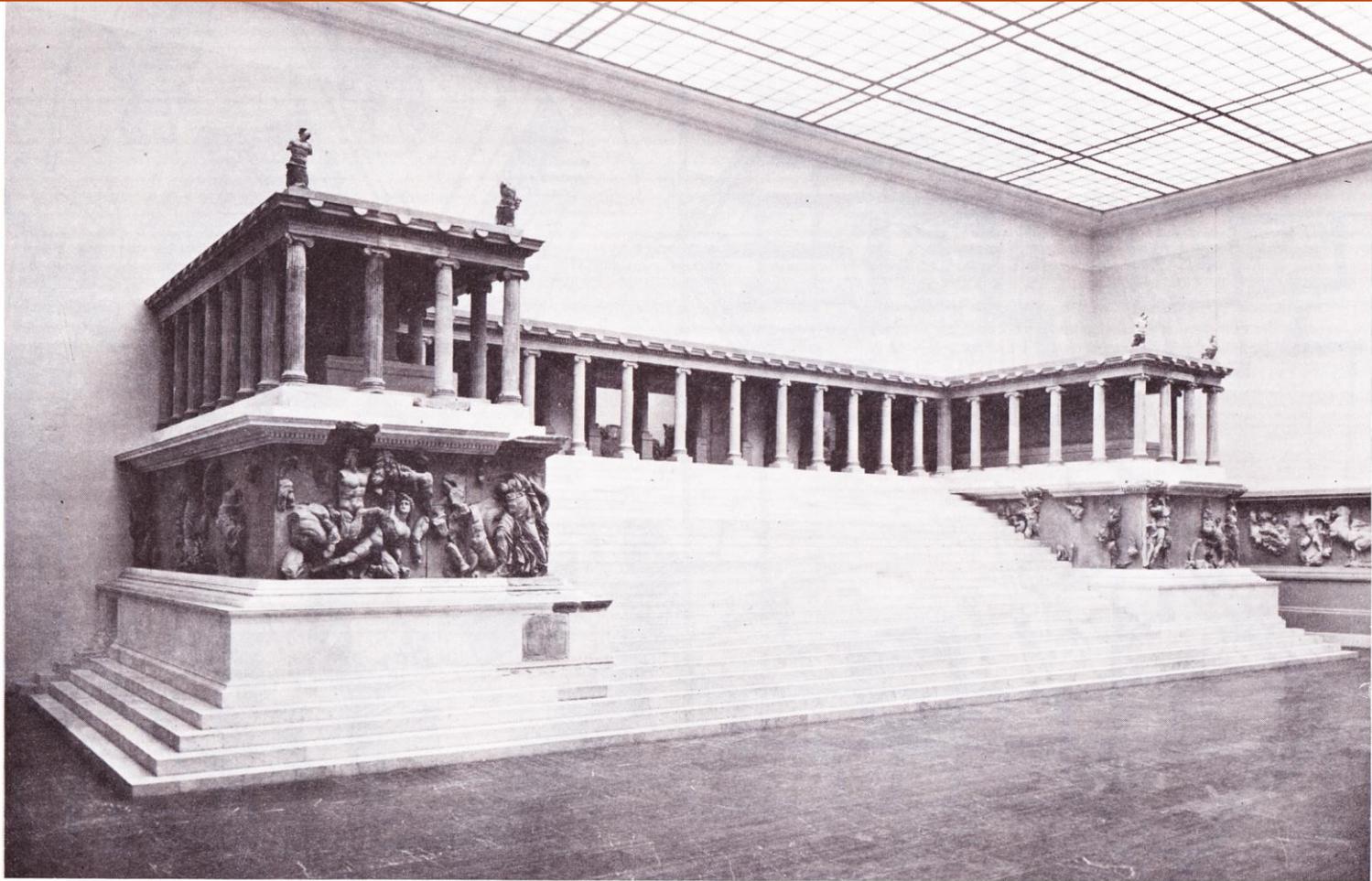
図面資料は、ガイドブック「Tory, Pergamon, Sardes, Izmir and its surroundings」より

9:18 5月27日(月)



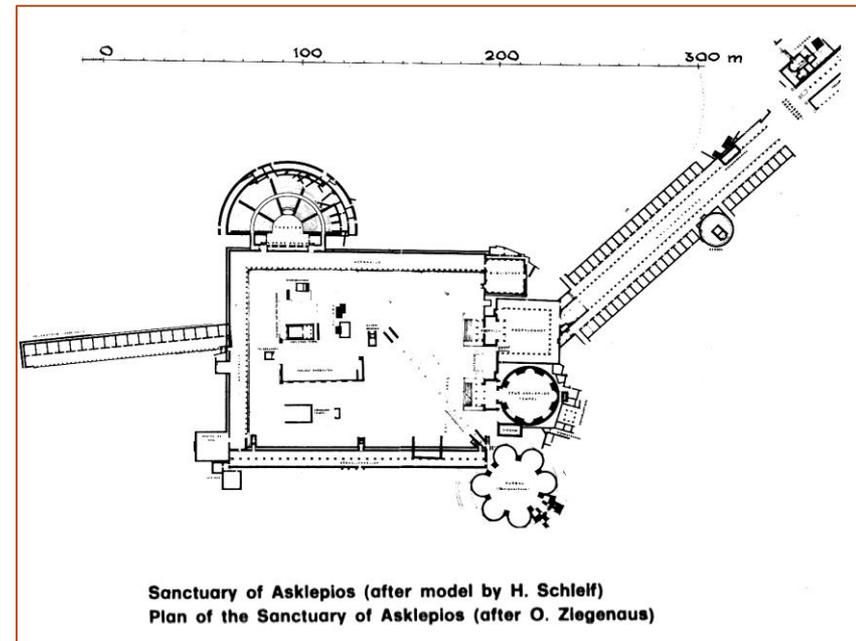
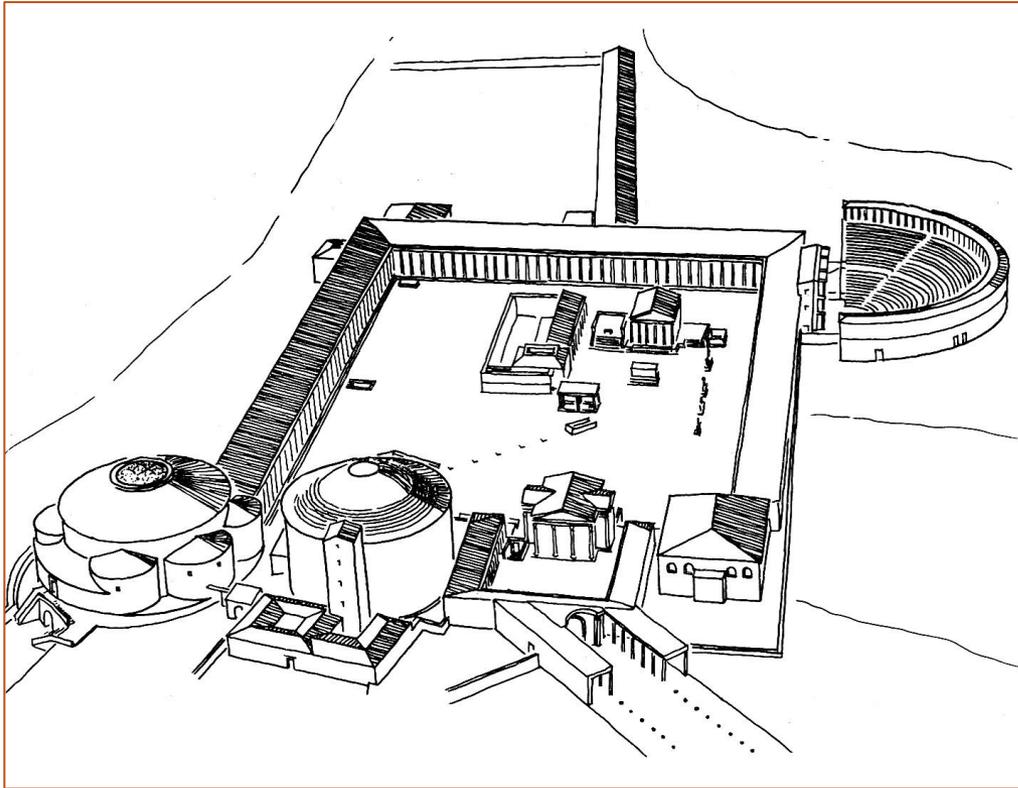
ゼウスの祭壇

ドイツ・ベルガモン博物館の ゼウスの祭壇



Wolfgang RADIT, Pergamon Archeological Guide, 3rd Edition, Turkiye Turing ve Otomobil Kurumu, Sisli Meydani, 364, Istanbul, pp.75, 1984. より

アスクレピオンの復元図



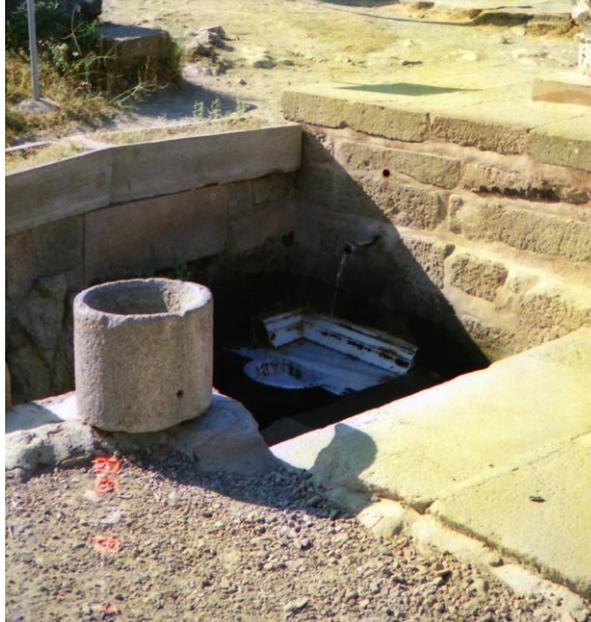
Wolfgang RADIT, Pergamon Archeological Guide, 3rd Edition, Türkiye Turing ve Otomobil Kurumu, Sisli Meydani, 364, Istanbul, pp.75, 1984. より



1986年撮影



1986年撮影



1981年撮影

1. トロイの遺跡

2. ベルガマ遺跡

3. エフェス

4. アニ遺跡

23:35 4月24日(水)



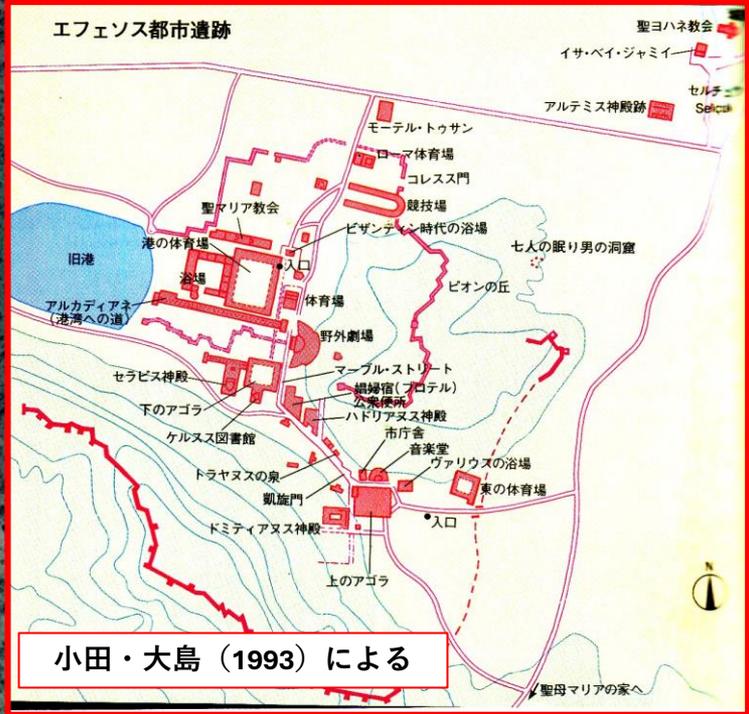
cient Christian
ch of Virgin Mary

エフェソス遺跡

efeso
公園



エフェス



小田・大島 (1993) による

エフェソス (エフェス) は、イズミールの南、約75kmのところにある。エフェソスは、1992年と1995年の夏に訪れた。

Fountain of Pollio, Ephesus
Ephesus
Archaeological Site



豊穡の神：アルテミス像
(お土産物)

エフェソスでは、紀元前2000年ごろからキベレ（アナトリア地域に広くみられる地母神）を祭る集落として始まったようである。キベレは後にアルテミス神に習合され深く信仰されるようになる。

紀元前11世紀ごろから、肥沃な土地での農産物の生産と周辺地域との海洋交易により、イオニア人の町がアルテミス神殿を中心栄えたが、その際、メンデレス川が運んでくる土砂により港が埋まってくることに、その結果として沼地のような状態になりマラリア大発生したことが、非常な問題になったということである。

曲がりくねった状態に係わる言葉で、例えば英語に meander（メアンダー）という言葉があるが、この単語はこのメンデレス（メアンデレス）川に由来している。それだけ、川の氾濫が激しい暴れ川だったのである。そこで神託により、住居地を移すなどの対策により、町はさらに発展してゆく。ただし、現在のメンデレス川は、エフェスからさらに50km程南に位置するアクキョイあたりで、エーゲ海にそそいでいる。



古代では、町の中央に大劇場から西に延びるアルカディアン通りを行くと、港があったはずであるが、現在、海は通りの端からさらに数キロ先に位置している。これは、古代において都市のエネルギーを周辺の木材に依存し、伐採による周辺の森林破壊により山の土砂が海に運ばれ海岸線が海に向かって移動してしまったためであるという。それだけの人口の集中した巨大都市になって行ったということであろう。

紀元前6世紀、町はリディア王のクロイソスにより支配されるようになり、王がペルシアに敗れたのちは、ペルシアの属州となった。

その後、アレクサンダー大王が、また、大王の死後は、その武将のリシュマコスが支配者となった。この時にも土砂で埋まった港湾と衛生状況が問題となり、町は、現在の遺跡となって残っている場所に移されている。

ローマ支配以降も、交易の中心としての機能を持つエフェソスは、依然として繁栄を続けた。

エフェス遺跡の大劇場



1992年8月撮影

港へと続くアルカディアン通りから見た大劇場

大劇場



ケルスス図書館



ケルスス図書館は、紀元2世紀前半の建築物で、アレクサンドリア、ベルガモンに次ぐ、12万冊の蔵書数を誇った図書館であった。20世紀初頭に発見されたときには、相当破壊されていたが、1970年代に入り修復され、現在に至っている。



図書館 詳細



ハドリアヌス神殿



1992年8月撮影

クレテス通りに面して存在するハドリアヌス神殿

エフェスの公衆トイレの遺跡



大理石のベンチ式で、一定の間隔で穴が開いているので、そこに座って用を足すのだと理解できるが、隣の席との間には仕切りはない。

着ていたトーガの裾を後ろ側にまくり、座ることで用を足せば、問題がなかったのだろうか？ 用を足している間、隣とお喋りもしたのだろうか？

上水道の設備





モザイク模様を
施された道



轍が見られる大
理石の道



路面大理石に刻まれた標識



マール通りから、坂道となっているクレテス通りに入ると、通りに面した娼婦館の入り口を示す、標識が通り左手の路面大理石に刻まれている。ハートマークと左足である。

アルテミス神



Images of Turkey by the
Ministry of Culture and
Tourism, Turkeyの26番目
のスライドより



エフェス遺跡で見つ
けたアルテミス神の
レリーフ

新約聖書の「使徒行伝」（第19章）によると、キリスト教の浸透は、この地域でも始まり、パウロが布教のためエフェソス（エペソ）を訪れた際には、アルテミス神を信奉する民衆が、パウロの布教に反対し「大いなるかな、エペソ人（びと）のアルテミス」と叫び続けたと、第19章28にその記述がある。

新約聖書の記述は、国際ギテオン協会、1976年印刷のものを基にしている。

スコラスティカの浴場跡



スコラスティカの浴場への坂道

スコラスティカの浴場跡



クレテス通（ヘラクレス門方向へ）



1992年8月撮影

ヘラクレスの門



南東方向に向かって

北西方向に向かって



1. トロイの遺跡

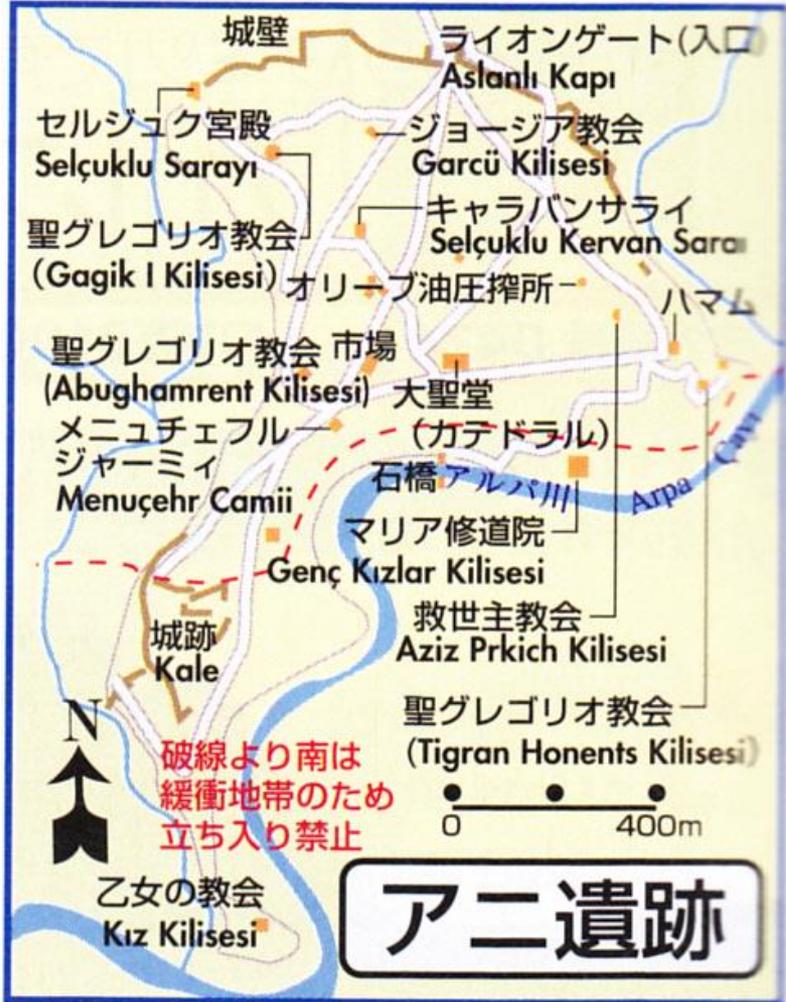
2. ベルガマ遺跡

3. エフェス

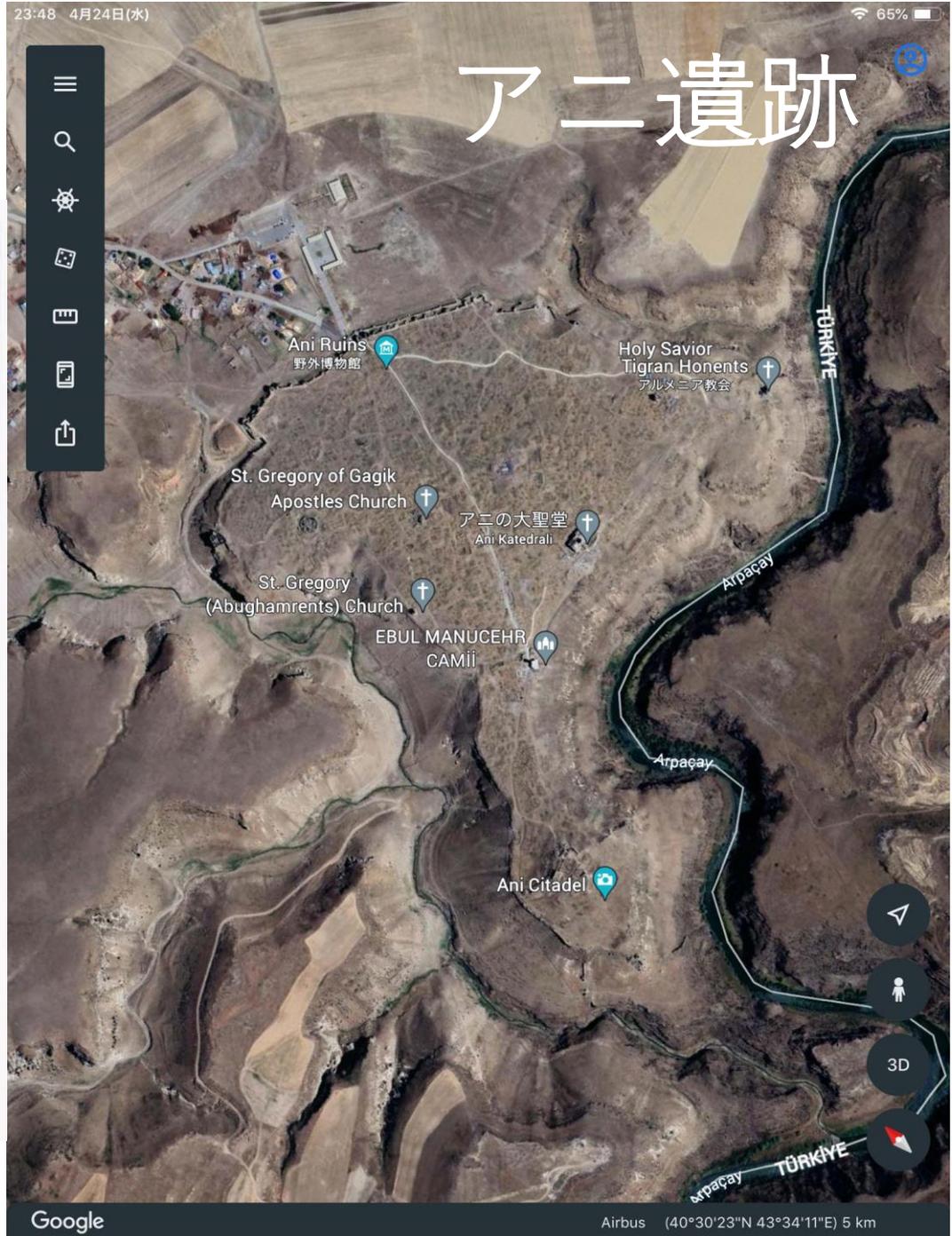
4. アニ遺跡



アニ



アニ遺跡



地球の歩き方 2019-2020
「イスタンブールとトルコの大地」
(2019) より

アニ遺跡の概要

アニは、アルメニア・バグラト（バグラトゥニ）朝（885年～1045年）に係る遺跡であり、バグラト朝はアッバース朝と東ローマ帝国に挟まれた地域を支配した。そして、アニという都市自体は、それまでバグラト朝の首都であったカルスから、アショット王が、971年にアニに遷都することで発展した都市である。992年にはアルメニア教会の主教座がアニに移され、宗教的中心都市としても繁栄している。最盛期には、1000もの教会があり人口が10万人を超える都市であったと言う。

しかし、11世紀以降、徐々に衰退した。現在は、町全体が完全な廃墟の遺跡となって残っており、町の北側では城壁のほぼ全体の、そして、西側では城壁の一部が残され、東と南側は、深い溪谷で囲まれている。

遺跡では、広い土地に点在するアルメニア教会様式の教会を含む建物遺跡群を、巡ることが出来る。

1001年に建てられた大聖堂（カテドラル）は、セルチュク朝トルコに支配された1064年からジャーミーとして使用されたが、13世紀になり再び教会として使われるようになった。現在の遺跡そのものはこの時の形を残しているが、14世紀に発生した地震により天井のドームは崩れてしまった。

国境緩衝地帯に隣接して建っている聖グレゴリオ教会は、典型的なアルメニア教会様式の教会で、アニがジョージアの影響会にあった1215年に建てられたものとのことである。谷沿いの地形と相まって印象的な遺跡である。

アニ遺跡公園の周辺の城壁



1990年8月23日撮影

アニの入場口付近の遺跡



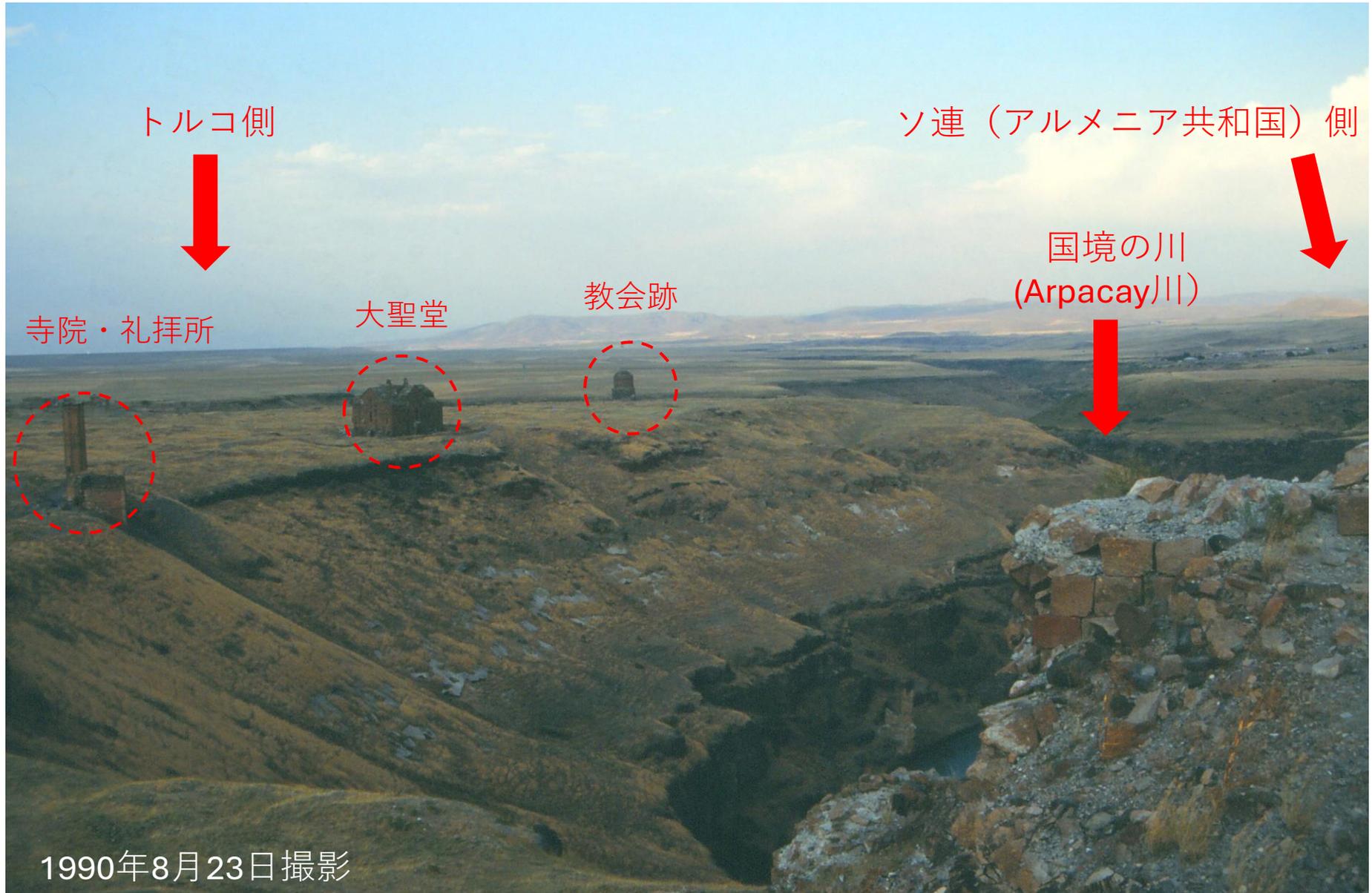
1990年8月23日撮影

アニ遺跡の入り口に 掲げられた警告



1990年8月23日撮影

アニ遺跡の主な建物



Holy Savior (教会跡)



1990年8月23日撮影

教会跡の外壁



1990年8月23日撮影

教会の内側



1990年8月23日撮影

大聖堂



1990年8月23日撮影

Ebul Manucher Camii (モスク跡)



1990年8月23日撮影

聖グレゴリオ教会 (アルメニア教会跡)



1990年8月23日撮影

聖グレゴリオ教会遺跡



1990年8月23日撮影



1990年8月23日撮影



1990年8月23日撮影

第73回関西蔵前懇話会
2024年6月20日（木）

オスマンのトルコ 世界遺産探訪



終